

研究室名 日本語教育研究室（3号館2階） 教員名 古別府ひづる

日本語教育研究室について

日本語教育学は、日本語を第一言語としない学習者を対象に日本語を教授する際に、学習者の日本語習得を促進するための方法、環境を思考する学です。言語学、心理学、社会学、教育学など、様々な背景知識が必要であり、学際的であると言えます。山口県立大学国際文化学部では、「日本語教員」の資格が取れるようになっていました。そこでは、実践的な科目が中心です。それに対し、「日本語教育研究室」では、理論に重点が置かれると考えてください。その違いについては、日本語教育は現場性の強いものなので、まず、実際から理論にどのようにつながるかを考えることが大切です。そこで、紙面で少しでもご理解いただけるよう、日本語教育と日本語教員養成について Q&A 形式で解説します。

1) 日本語教育と国語教育はどう違うのですか？

国語教育が日本語を第一言語としている人に日本語を教えるのに対し、日本語教育は日本語を第一言語としない人に、日本語を教えることです。国語教育は既に日本語が理解できる人が、知識を深め、表現技術を磨くためになされるわけですが、日本語教育は、日本語が理解できない人に、日本語がわかり、使用できるようにすることが主目的です。それは、小中学校で初めて英語を外国語として学ぶ日本人学習者と同じで、日本語教育は外国語教育にあたります。

2) 日本語教育では日本語をどのように教えるのですか。

日本語を外国人に教える日本語教師は、いろいろな外国語が話せると思われがちです。もちろん相手の母語を知っている方がいいのですが、必ずしも必要条件ではありません。日本語教授法には日本語で日本語を教える直接法というやり方があります。既習の日本語と視覚教材を用いて状況を示し学習者に類推させつつ、新しい項目を教える方法です。直接法を試みれば、その限界もわかりますから、これに他のいろいろな外国語教授法の長所を組み合わせるやっていきます。もちろん、これには理論的背景、例えば、インプット仮説というものがあり、それは、外国語によるインプットが理解可能な情報より少しだけ多い時に習得が促進するとされています。皆さんの英語学習に当てはめて考えてみれば、想像がつくと思います（例えば、既に習った理解可能な表現を繰り返されるより、少しだけ知らない語彙があれば、類推が働き、理解力がつく、習得が進むということ）。

3) 日本語学習者ならではの躓きにはどんなところがありますか。

幾つかの側面における学習者の誤用例や質問から見ていくことにします。

（音声）「先生、痴漢（？）が来ました。」「わたしは、監獄（？）から来ました。」これは、韓国人学習者の誤用です。韓国語は、語頭が無声化し、語中が有声化する特徴があります。恐らく、この学習者は、「先生、時間が来ました。」「わたしは、韓国から来ました。」と言いたかったのでしょうか、ジカン チカンに、カンコク カンゴクと日本人の私たちには聞こえてしまったようです。学習者の母語が、学習言語に影響を与えることはよくあります。例えば、日本人の場合、英語の rice と lice の区別ができにくいと言われますが、これは、日本語に r と l の区別が無いことによります。学習者が誤解されやすい発音を指摘できるよう、日本語教師は音声学と対照言語学の知識が必要です。

（文法）「は」と「が」はどう違うのですか。

「は」と「が」の違いは、既知（旧情報）と未知（新情報）という視点が妥当とされています。「桃太郎」の話を思い出してください。「むかしむかし、おじいさんとおばあさんがありました。おじいさんは、柴刈りに、おばあさんは、川へ洗濯に行きました。」初めて出てくる情報には「が」が用い

られますが、再度、出てくる場合には、「は」になっていますね。

(語彙)「水を沸かします」ではなく、「お湯を沸かします」というのはどうしてですか。

学習者の質問ももっともだという気もしますが、日本語では、水を沸かして作り出されるもの、結果としてできあがるものを先に想定して、目的物として示すという表現があります。つまり、水を沸かしてできたものがお湯なので、「お湯を沸かす」と言います。「ご飯を炊く」(米を炊いてできたものがご飯)という言い方も同様です。

(敬語)「傘を貸して差し上げましょうか」は謙譲語が使われているのに、どうして使わない方がよいのですか。

それは、「あげる」には、相手に恩義を押しつけるところがあるからです。社会では、相手を尊重する関係作りが重要です。自分が優位に立っていることをあからさまに示すことは、相手に対する気配りをしていないこととなります。ですから、「差し上げる」が敬語であろうとも、相手に「～してあげる」という表現を使って、相手に引け目を感じさせるようなことは控えるべきです。むしろ、自分から申し出る、「傘をお貸ししましょうか」の方を用いるべきです。

以上、日本語教育学は、学習者の誤りや疑問を通して、つまり、日本語ネイティブでは気づかなかった外からの視点より体系化された学問なのです。

4) 山口県立大学国際文化学部日本語教員養成課程ではどんなことが学べるのでしょうか。

この学部では主専攻相当単位数の授業が展開されており、修了時には、大学発行の認定書が出ます。カリキュラムの中で、力を入れているのは実践系の科目で、中でも「日本語教育実習」は、最重要科目に位置づけています。これには、国内実習と海外実習があります。国内実習では、大学間交流協定を結ぶ中国の曲阜師範大学と韓国の慶南大学の留学生を対象に行います。海外実習は、ニュージーランドやオーストラリア、アイルランド、タイ、マレーシアの中高校にて行います。尚、「日本語教育実習」の単位を取得した学生は、日本語アシスタントとして、アメリカやカナダ、中国の大学またはニュージーランド、オーストラリア、アイルランドの中高校に半年から1年行く機会があります。詳しくは、日本語教員養成のHPをご覧ください。 <http://furubeppu.ypu.jp/>

これからは、日本にさまざまな形態で外国人が定住するにつれ、いろいろな問題も出てきます。外国人児童の日本語教育、母語継承の問題、外国人花嫁の疎外感や難民政策等、これらの国際的課題に日本語は必ず関わってきます。日本語教師になってもならなくても、日本語教育を通し、自らの言葉に敏感になることが他者に自らを伝える基本であることを認識し、その上で、積極的に国際社会に関わろうとする姿勢を養うことが日本語教員養成の目標です。



「日本語教材教具論」で学生達と作成した教科書

以上より、「日本語教育研究室」は、日本語教育の実際を通して生まれた自らの問いを科学するため、その方法を考え、その結果見えてきたものから、新たな自分に出会い、他者との関係性が豊かなものになるように、言葉を持って、創造する場です。